

“あいさつと笑顔でかわす

大倉の郷”

☆ 大 倉 地 区 ☆

地 域 ま ち づ く り 計 画



大倉まちづくり協議会

目 次

1	計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	計画の位置づけ・期間・・・・・・・・・・	1
3	地区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2
4	地域住民の意向・・・・・・・・・・	4
	☆住民まちづくりアンケート調査結果・・・・・・・・	5
	★地区別まちづくり座談会開催結果・・・・・・・・	15
5	大倉地区の課題と今後のまちづくりの方向性・・・・・・	18
6	大倉地区の目指すべき将来像 (まちづくりの全体テーマ)・・・・・・・・	22
7	将来像の実現に向けた活動方針と活動例・・・・・・・・	22
8	推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	むすびに・・・・・・・・・・・・・・・・	31

☆ 資 料 編 ☆

1	地域まちづくり計画策定経過・・・・・・・・・・	1
2	地域まちづくり計画策定委員会設置要綱・・・・・・・・	2
3	地区別まちづくり座談会関係資料・・・・・・・・・・	5
4	住民アンケート調査関係資料・・・・・・・・・・	17
5	住民アンケート調査 自由意見・・・・・・・・・・	23

1 計画策定の趣旨

香取市においては、高齢者の割合が平成37年には4割を超えると予測され、さらに世帯構造も単身世帯や小世帯の割合が増加し、核家族化が進行していくことが考えられます。

大倉地区においても例外ではなく、少子高齢化や人口減少が進み、世帯構造が変化する中で、地域コミュニティの再生を図ることが喫緊の課題となっています。

また、東日本大震災のような想定外の災害を乗り越えるためには、日頃の訓練や備えはもちろんのこと、人と人とのつながり“絆”が大切であり、みんなが声をかけ合い、力を寄せ合い、人を気づかいながら、みんなで助け合う“地域の絆”をつくりあげることがこれからのまちづくりにとって一番大切なことです。

大倉地区地域まちづくり計画は、こうした地域が抱える課題を自分たちで克服し、子どもから高齢者までのすべての方が、将来に向けて安心して生き生きと暮らすことができ、そして、「大倉に住んでよかった」と思えるようなまちづくりを進めるために、大倉地区の将来像を共有し、地域一丸となって取り組む活動方針等を定めたもので、大倉地区におけるまちづくり活動の基本となるものです。

2 計画の位置づけ・期間

この計画は、概ね10年間の活動像を描くものですが、社会情勢の変化も踏まえ、随時見直しを行っていくものとします。

また、本計画に掲げる施策（活動）等の実践については、活動体制や取り組むことのできる環境が整ってきたものから順次取り組んでいくこととし、実際に協議会の活動にご協力いただく住民の皆さんの負担とならないよう、無理のない範囲で、できる活動から始め、徐々に活動の多様化を図っていくこととします。

3 地区の概要

(1) 沿革

大倉地区は、明治22年の町村施行により、大倉村が単独村制を施行し誕生した旧香取郡大倉村に由来し、その後、昭和30年に佐原市に編入され、さらに、平成18年の合併による香取市（平成の大合併）へと市の行政区域は拡大してきましたが、これまで一つのまとまった地域として歩んできました。

現在は、大倉丁子区、側高区、丸峰区、市神区、代下区、今市自治会、中郷区、本西区、大倉新田自治会、水郷団地区の8区2自治会で構成されています。

(2) 地 勢

大倉地区は、香取市の東部に位置し、東は小見川地区、西は津宮地区、南は香取地区、北は新島地区とそれぞれ接し、利根川に面する低地と下総台地の谷津地に広がる、豊かな自然が息づく地域です。

また、主な農産物として、米、水郷梨が栽培されています。

(3) 交 通

地区内をJRや路線バス、高速バスが走り、公共交通の便も比較的良好な地区です。

(4) 歴史・文化

側高神社（表紙写真）は、大倉の利根川を見下ろす台地に鎮座しています。香取神宮第一の摂社で、地元では「側高様」と呼ばれ、親しまれています。本殿は、寛文5年（1665年）の建立で、昭和57年に千葉県有形文化財に指定されました。毎年、1月には、奇祭として知られる「ひげなで祭り」（市指定無形民俗文化財）が執り行われます。



(5) 人口統計データ

地区名	平成3年			平成23年			最近10年 間の人口 増減率
	人 口	世帯数	高齢化率	人 口	世帯数	高齢化率	
大倉丁子	140	35	20.0%	152	53	19.7%	8.6%
側 高	198	49	21.7%	168	51	26.2%	▲ 15.2%
丸 峰	224	52	17.4%	212	74	25.0%	▲ 5.4%
市 神	235	116	44.7%	218	126	59.2%	▲ 7.2%
代 下	200	59	21.0%	169	64	34.3%	▲ 15.5%
今 市	205	45	16.1%	176	53	28.4%	▲ 14.2%
中 郷	357	86	18.8%	303	101	28.4%	▲ 15.1%
本 西	151	35	19.9%	118	37	32.2%	▲ 21.9%
大倉新田	187	41	13.4%	172	48	26.7%	▲ 8.0%
水郷団地	358	107	2.5%	249	110	44.2%	▲ 30.5%
地区計	2,255	625	18.7%	1,937	717	33.2%	▲ 14.1%

※平成23年市平均高齢化率：26.9%

4 地域住民の意向

現在、私たちを取り巻く環境は、少子高齢社会の急速な進行に加え、国や自治体の厳しい財政運営や長引く経済情勢の低迷、さらには、東日本大震災からの復興・復旧など、あらゆる面で厳しい社会情勢となっています。

大倉地区においても、今後、地域の子どもたちや高齢者をどう支えていくか、あるいは災害時にどう対応していくかなど、様々な課題が山積しつつあります。

この地域に住む私たちは、その現実を知り、それに伴う将来を見据え、未来の子どもたちへ豊かな地域を守り、引き継ぐために、今できることから取り組みを始めることが必要となります。

そこで、本協議会では、私たちが願う将来の大倉地区はどうあるべきか、今後取り組むべき活動等について、次のとおり、「住民まちづくりアンケート調査」及び「地区別まちづくり座談会」を実施し、地域の多くの皆さんから寄せられた意見を参考にして、私たちが暮らす大倉地区の今後のあり方を検討することとしました。

■住民まちづくりアンケート調査

(1) 調査期間：平成24年12月～25年1月

(2) 回答者数：726名

(3) 調査結果：調査結果については、5～14ページのとおり

※回答者からいただいた具体的な意見等については、資料
編 23～31ページ参照

■地区別まちづくり座談会

開催日時	平成25年2月22日（金） 午後7時～8時45分	平成25年2月23日（土） 午後7時～8時30分
会 場	中郷コミュニティセンター	丸峰公民館
地 区	今市、中郷、本西、 大倉新田、水郷団地	大倉丁子、側高、丸峰、市神、 代下
内 容	15～17ページのとおり ※開催結果の詳細については、資料編5～16ページ参照	

大倉まちづくりアンケート調査の結果

1 アンケートの概要

(1) 目 的

大倉地区地域まちづくり計画を策定するにあたり、地域住民一人ひとりの意見を反映させるため、本地域に在住する住民に対し、アンケート調査を実施した。

(2) 実施時期

平成24年12月～25年1月

(3) 実施主体

大倉まちづくり協議会

(4) 対 象

大倉地区の高校生以上の住民

※2人以上の世帯は2部、単身世帯は1部調査票の記入（回答）を依頼

(5) 方 法

配布・回収とも24年度区長会（各区长）の協力を得て実施

(6) 回答者数

調査対象世帯数：622世帯

回収票数：726票

(7) 集計結果記載方法

アンケートは、「選択方式」を採用しており、「複数選択」を可としている設問があります。その場合の比率は、回答者数に対する割合を表記しています。

問1. お住まいは？

	回答数	割合
大倉丁子	49	6.7%
側 高	72	9.9%
丸 峰	63	8.7%
市 神	57	7.9%
代 下	61	8.4%
今 市	66	9.1%
中 郷	137	18.9%
本 西	25	3.4%
大倉新田	34	4.7%
水郷団地	162	22.3%
計	726	100.0%

問2 性別は？

	回答数	割合
男性	342	47.1%
女性	372	51.2%
無回答	12	1.7%
計	726	100.0%

問3 年齢は？

	回答数	割合
15～18 歳	2	0.3%
19～29 歳	28	3.9%
30～49 歳	148	20.4%
50～64 歳	279	38.4%
65～74 歳	173	23.8%
75 歳以上	91	12.5%
無回答	5	0.7%
計	726	100.0%

問4 家族は？

	回答数	割合
1 人	38	5.2%
2人	237	32.6%
3人以上	444	61.2%
無回答	7	1.0%

計	726	100.0%
---	-----	--------

問5 住んでいる理由は？

	回答数	割合
生まれも育ちも大倉地区	295	40.6%
結婚した相手が大倉地区出身者だった	201	27.7%
新たな居住地として大倉地区に住んでいる	194	26.7%
その他	32	4.4%
無回答	4	0.6%
計	726	100.0%

「生まれも育ちも大倉地区」の人が約41%、逆に結婚や新たな居住地として大倉地区に住んでいる人は約54%で、半数以上の方が新住民の方でした。

問6 住みやすいと思う？

項目	回答数	割合
思う	456	62.8%
思わない	130	17.9%
わからない	140	19.3%
計	726	100.0%

問7 治安は？

	回答数	割合
良いと思う	480	66.1%
悪化している	121	16.7%
わからない	125	17.2%
計	726	100.0%

問6の「住みやすさ」、問7の「治安の良さ」については、いずれも6割以上の良いと回答しており、他の小学区と比較しても、高い数値でした。

問8 住み続けたいと思う？

	回答数	割合
ずっと住んでいたい	395	54.4%

当面は住みたい	199	27.4%
いずれは他地域に移りたい	35	4.8%
わからない	97	13.4%
計	726	100.0%

「住み続けたいか」の問いについても、約8割の人が大倉地区に住み続けることを希望し、他の小学区と比較しても、高い数値でした。

問9 子や孫に住んでほしいと思う？

	回答数	割合
ずっと住んでほしい	258	35.5%
他地域に住んでもよい	207	28.5%
いずれは住んでほしい	138	19.0%
わからない	123	17.0%
計	726	100.0%

子や孫にも大倉地区に住んでほしいと思っている人は、いずれは住んでほしい人を含めると約55%で、他地域に住んでもよいと思っている人の29%を大きく上回っています。

問１０ 地域の将来を考えるうえで、特に重視すべきことは？（複数選択）

		選択数	選択割合
1	近所や地域のつきあい・助け合い	485	66.8%
2	子どもの安心・安全の確保	385	53.0%
3	通院や買い物など“生活の足”の確保	307	42.3%
4	震災、水害、火災などに対する防災対策	283	39.0%
5	高齢者の生きがいや健康づくり	231	31.8%
6	青少年の健全育成	161	22.2%
7	雇用の場の確保	159	21.9%
8	防犯対策・防犯活動	152	20.9%
9	健康維持や介護予防の取組み	150	20.7%
10	子育て支援活動の充実	140	19.3%
11	地域の清掃活動などによる生活環境の改善	120	16.5%
12	農業後継者の育成	119	16.4%
13	地域を担う人材の育成	116	16.0%
14	祭りやイベント等を通じた住民の交流	116	16.0%
15	自然環境の保全	107	14.7%
16	個人のプライバシー	106	14.6%
17	歴史や文化の保存・継承	71	9.8%
18	ボランティア活動の推進	60	8.3%
19	その他	13	1.8%

全体では、「近所や地域のつきあい・助け合い」を重視する人が**67%**、「子供の安心・安全の確保」を重視する人が**53%**で、これまでアンケート調査を行った小学区の中でも一番高い数値でした。

また「震災、水害、火災などに対する防災体制の充実」を求める人が**39%**いることから、地域内の誰もが顔見知りで、気軽にコミュニケーションが取れる地域社会（コミュニティ）の確立により、「安全・安心なまちづくり」を求めているものと思われます。

また、通院や買い物などの「移動手段の確保」を求める人が**42%**、「高齢者の生きがいや健康づくり」を重視する人が**32%**と、他の小学区に比べても高いことから、今後、地域における高齢者福祉をどのように展開していくか検討が必要と思われます。

問11 少子化問題・地域でできることは？（複数選択）

		選択数	選択割合
1	若者が地域に定着できるよう、魅力ある地域づくりを行う	346	47.7%
2	地域全体で大倉地区の子供たちを育て、見守り、子育てがしやすい環境づくりを行う	244	33.6%
3	地域行事を通した住民のコミュニケーションを充実させ、人と人とのつながりを大切にした地域づくりを行う	155	21.3%
4	子ども時代に地域の自然の中で遊び、学ぶことにより、地域への愛着心を育む	121	16.7%
5	少子化対策は全国的に行われていても解決に至っていない難しい問題であるので、地域でできることはない	78	10.7%
6	わからない	45	6.2%
7	その他	15	2.1%

問１２ 安全対策・地域で行えば良いことは？（複数選択）

		選択数	選択割合
1	高齢者世帯の健康確認を含めた見守り活動	330	45.5%
2	子どもの通学の際の見守り活動	277	38.2%
3	災害時における要援護者の把握と援護体制づくり	262	36.1%
4	地区全体で毎年、防災訓練を行い、地震などの自然災害や火事などに備える	131	18.0%
5	高齢者を対象にした交通安全教室や防犯教室の開催による意識啓発	97	13.4%
6	安全・安心対策は各自で行うことであり、地域が行うことではない	32	4.4%
7	その他	2	0.3%

問１３ 高齢者福祉・地区にあったらいいと思うサービスは？

(複数選択)

		選択数	選択割合
1	病院や買い物などへの送迎サービス	356	49.0%
2	趣味の活動の場など、多くの方とふれあえる 機会の提供	207	28.5%
3	好きなときに集まり、交流ができる（交流サ ロンなど）の開設	196	27.0%
4	高齢者などを対象にした昼間の見守り活動	196	27.0%
5	健康維持や介護予防のための健康教室の開催	143	19.7%
6	高齢者と同居していないので、わからない	51	7.0%
7	その他	3	0.4%

問１４ 「まちづくり」のイメージは？

	回答数	割合
行政が主体的に進めるもの	91	12.5%
一部の人たちが行っているもの	41	5.6%
住民が主体的に行うもの	48	6.6%
住民と行政が協働で行うもの	412	56.8%
わからない	134	18.5%
計	726	100.0%

問１５ 「住民参加」についての考えは？

	回答数	割合
何事にも積極的に参加したい	32	4.4%
内容や頻度等によっては、積極的に参加したい	142	19.6%
頼まれれば、可能な範囲で参加・協力したい	311	42.8%
関心がない	43	5.9%
わからない	190	26.2%
その他	8	1.1%
計	726	100.0%

問１６ 協議会の設立を知っていましたか？

	回答数	割合
知っていた	280	38.6%
知らなかった	409	56.3%
無回答	37	5.1%
計	726	100.0%

協議会の設立を「知っていた」人が約４割、「知らなかった」人が約６割という結果を踏まえ、協議会に対する住民への周知を今後、さらに図っていく必要があります。

地区別まちづくり座談会 開催結果

1 目的

地域まちづくり計画の策定過程において、住民とともに地域の課題や目指すべき将来像、地域自らが取り組むべき具体的活動内容等を明らかにし、共通理解を得るとともに、改めて今後の協議会活動への理解・協力を求めています。

2 参加者

協議会委員については、各地区全員の参加を依頼

3 内 容

日頃からいただいている地域の良いところ、悪いところ、地域をどのようにしていきたいか・・・など、会議形式ではなく、意見が出やすいように 10 人前後の班に分けて話し合い、最後に班ごとに発表を行う。

☆テーマ1：「地域の現状・課題（将来像）について」

（1）“住んでいて、ここが気になる、心配だ・・・と思うことは？”

（2）“住んでいて、ここが良いところだ、強みだ・・・と思うことは？”

☆テーマ2：「今後、地域で取り組むべき活動等について」

“今後、自分たちでやってみたいと思うこと、誰かにやってもらいたいこと、活動を続けてもらいたい・・・と思うことは？”

地区別まちづくり座談会での主な意見

■ 気になる現状

【防災・防犯・交通安全】

- ・ 災害時の避難での助け合い
- ・ 高齢者等の災害弱者への対応
- ・ 危険箇所の点検と対策
- ・ 登下校時の交通安全

【生活環境】

- ・ ごみ出しのルールを守らない人がいる
- ・ ごみのポイ捨てごみ、不法投棄がある
- ・ 車などの騒音 ・ 働く場所がない

【健康・高齢者福祉】

- ・ 一人世帯、高齢者だけの世帯が増加
- ・ 高齢者クラブがない
- ・ 高齢者の交流の場が少ない
- ・ “買い物難民” ・ 高齢者の移動手段

【子ども・教育】

- ・ 少子化が進んでいる
- ・ 子どもが外で遊ぶ場（公園）が少ない
- ・ 子どもとふれあう場が少ない
- ・ 学校と地域の連携が必要

【住民交流・地域コミュニティ】

- ・ 地域間のつながりが希薄になっている
- ・ 大倉地区全体の交流の場がない
- ・ 地域活動に携わる人が少ない
- ・ 町内の付き合いが少なくなっている
- ・ 大倉の歴史をまとめた資料がない
- ・ 神楽、神輿などの行事がなくなった

【その他】

- ・ 買い物が不便 ・ 公共交通手段が少ない
- ・ 農業後継者の不足 ・ 梨農家の減少

■ 好ましい現状

【防災・防犯・交通安全】

- ・ 近所同士のコミュニケーションが取れていて、治安が良い
- ・ 駐在所連絡協議会や防犯パトロール隊などが良く活動している

【生活環境】

- ・ ホタル、メダカ、カワセミなどがいて自然環境が良い
- ・ タウントレイル（散歩するルート）が多数ある

【健康・高齢者福祉】

- ・ 隣近所で高齢者を見守っている

【子ども・教育】

- ・ 住民の小学校教育への意識が高い
- ・ 子どもたちが純朴である

【住民交流・地域コミュニティ】

- ・ 地域としてのまとまりが良い
- ・ 近所での助け合いができています
- ・ 地域の絆が強い
- ・ 町内ごと、団体ごとの活動がまとまっている
- ・ 昔の古い習慣をどんどん改善しているという考え方がある
- ・ 伝統行事が比較的多く残っている（ひげなで祭り、神幸祭など）
- ・ 昔、獅子舞や神輿があった。

■今後、取り組むべき活動や要望など

【防災・防犯・交通安全】

- ・防災訓練の実施
- ・災害時の隣近所の助け合い、支え合い
- ・災害時の拠点づくり
- ・地区防災体制の見直し
- ・防災倉庫の設置
- ・防犯パトロール隊や駐在所連絡協議会の活動の継続
- ・消防団との連携による夜警の強化
- ・小学生の登下校時に合わせて散歩に出してもらう

【生活環境】

- ・地区全体での環境美化活動（除草、ごみ拾いなど）、美化デーの設定
- ・通行上支障となる木枝の伐採
- ・里山の整備
- ・ごみ出しのマナーを守るよう呼びかける掲示物の設置
- ・ごみのポイ捨て、不法投棄等の監視を強める（取締り強化）
- ・名所をつくる（例：水路沿いに桜などの植樹）
- ・お散歩ルートを開拓し、スタンプラリー等による歩け歩け大会の開催

【健康・高齢者福祉】

- ・高齢者世帯への近所の目配り、定期的な見守り
- ・高齢者が楽しめるような企画など、高齢者のふれあいの機会の提供
- ・高齢者クラブの復活
- ・健康体操教室の開催
- ・グラウンドゴルフなど健康づくりの取組みを定期的に行う
- ・通院や買い物など高齢者等の移動手段の確保

【子ども・教育】

- ・あいさつについて、子どもの作った標語を看板にして設置する
- ・地域で子どもを見守り、育てる（あいさつ、看板設置など）
- ・風づくりなど、昔の遊び体験教室（イベント）の開催

【住民交流・地域コミュニティ】

- ・地区全体の世代間交流の場をつくる（綱引き大会、地区対抗運動会・・・）
- ・地域全体での楽しめる行事（レクリエーション）の開催
- ・子どもたちや高齢者への声かけ（あいさつ）の推進する
- ・大倉歴史研究会の設立

【その他】

- ・“買い物難民”対策
- ・若い農業従事者を広報で紹介する
- ・水郷梨のPR

5 大倉地区の課題と今後のまちづくりの方向性

大倉地区の現況や住民アンケート調査及び地区別まちづくり座談会での意見等をもとに、大倉地区におけるまちづくりの課題を整理・集約するとともに、本協議会が取り組むべきまちづくりの方向性について、次の4つの基本理念に整理しました。

課題1 住民（世代間）交流の推進、 地域コミュニティの活性化、歴史・文化の継承

- 隣近所や人と人とのつながりがあり、交流を深めてきましたが、近年、地区全体で集まる機会や、若い世代の地域行事や地域活動への参加が少なく、地域に対する関心や愛着、世代間の交流が薄れていくことが懸念されます。
- 少子化の進行や若年層の地域外への流出が目立ち、人口が減少し続けていることから、自治会や消防団などの地域活動に支障をきたしつつあります。
- 地区の豊かな歴史と文化を次の世代に引き継いでいくためには、世代間交流を通して、ふるさとの歴史・文化、伝統行事を学び、ふるさとに誇りが持てるようにする必要があります。

まちづくりの基本理念 I

“人と人とのふれあいを大切にするふるさとづくり”

住民同士の交流の機会を提供し、住民相互の交流と相互理解を深めるとともに、地域で子どもたちを育み、安心して子育てができる環境を創出することにより、地域住民とのふれあいや信頼関係を育みます。

課題2 高齢者福祉の充実・健康づくりの推進

○高齢化が進行しており、高齢者一人暮らし世帯や高齢者夫婦世帯の増加も目立ち、高齢者にとっても、また、その家族にとっても、地域内の防犯・防災面や健康などの福祉面において、不安を解消していく必要があります。

○高齢者の見守りの体制や生きがいづくりの場があまりありません。

○車が利用できない高齢者の日常的な通院・買い物などの交通の不便さを感じられます。

○全国的に見ても、生活習慣病や成人病、認知症などが増える健康にあることから、健康診断の受診や運動不足の解消など健康づくりに関する意識を高めていく必要があります。

まちづくりの基本理念 II

“互いに助け合い、
いきいきと暮らせるふるさとづくり”

高齢者が集う場づくり、健康づくりや生涯学習の機会を提供することにより、住民誰もが健康で、生きがいや充実感を持って暮らせるように、地域ぐるみで高齢者福祉と健康づくりを推進します。

課題3 安心・安全な地域の創出

○東日本大震災や、全国各地で頻発する自然災害などで、地震や水害などの自然災害への住民の不安を解消していく必要があります。

○子どもや高齢者などが犠牲となる犯罪や交通事故が全国的に発生していることから、地域で子どもや高齢者を犯罪や事故からどう守っていくか検討する必要があります。

まちづくりの基本理念 III

“安全で安心して暮らせるふるさとづくり”

防災訓練などを実施し、地域住民の連携と協調が図れる災害に強い地域づくりを展開するとともに、一人ひとりの防犯意識及び交通安全意識を高め、誰もが安全に暮らせる、犯罪や交通事故のない環境づくりを行います。

課題 4 環境保全・美化、地域産業（農業）の振興

○ごみのポイ捨てや不法投棄、ごみの分別の不徹底が見受けられるなど、緑豊かな自然景観が阻害されることが懸念されます。そのため、豊かな自然の保全・活用を図るとともに、清掃や美化活動の推進が必要です。

○大倉地区は、米や梨などの農業が盛んな地域ですが、近年、農業の担い手が不足し、地域農業の存続のために、農業後継者を育成していくことが必要です。

まちづくりの基本理念 IV

**“豊かな自然と農業を守り、
次世代につなげるふるさとづくり ”**

地区の豊かな自然環境と主産業である農業を守り、次の世代に伝えるため、自然や河川景観などの保全活動や地域の環境美化を進めるとともに、農業後継者の育成など農業の振興を図ります。

6 大倉地区の目指すべき将来像（まちづくりの全体テーマ）

あいさつと笑顔でかわす 大倉の郷

7 将来像の実現に向けた活動方針と活動例

☆基本理念Ⅰ：人と人とのふれあいを大切にするふるさとづくり
【住民交流・歴史、文化・教育】

☆活動方針1：人と人とのふれあいや歴史・文化を大切にして、人間関係の輪を広げ、誰もが顔見知りの、地域コミュニティを目指します！

項目名・連携団体	事業内容等
住民交流イベントの充実 区、地域活動団体、住民 等	地域のあらゆる人が参加しやすい住民交流イベントを開催・支援することにより、住民相互の交流を深める。 【活動例】 ・夏祭り（盆踊り）、地区対抗運動会、グラウンドゴルフ、ウォーキング、カラオケ等の各種イベントの開催 ・将棋、囲碁、健康マージャン、カラオケ、俳句などの趣味を通じた交流イベントの開催 ・既存の住民交流イベントの支援

子どもたちとの交流の推進 区、地区社協、小学校、保育所、PTA、子ども会、住民 等	地域住民が趣味や特技等を生かした子どもを対象とする地域講座を開設するなど、世代間交流を通じて、子どもたちの健全な育成を進める。 【活動例】 • 昔の遊び教室、農業体験、餅つき大会など世代間交流イベント等の開催 • 全子ども会参加による親子レクの開催 • その他、焼き芋大会、クリスマスパーティ、音楽会、子ども作文・写真コンクールなど・・・
地域の歴史や文化の保全 区、地域活動団体、住民 等	身近な地域の歴史や文化に関する学習機会を提供したり、地域に伝わる祭事や行事等の記録化を推進することにより、生まれ育った地域への愛着をいっそう増進する。 【活動例】 • 地域行事等のビデオ、写真による映像記録化の推進 • 昔の話や写真等をもとにした記録集の作成 • 地域スポットを巡るウォーキング大会の開催 • 地域の歴史や文化を知るための子ども学習会の開催 • 案内看板の作成、設置
広報紙の発行 地域活動団体、住民 等	協議会の広報紙を年4回（季刊）発行し、協議会や各種団体の活動内容、地域の話題などを地域住民に広く周知し、情報の共有を図り、相互理解を深める。
あいさつ（声かけ）運動の展開 区、小学校、住民 等	“出会ったら、まずあいさつ”を合言葉に、あいさつ運動を地域や学校など各種団体が連携して実施することにより、近所付き合いや住民同士の交流を大切にするとともに、地域ぐるみで高齢者や子供の見守り活動を進める。

☆活動方針２：地域で子どもたちを育み、子どもたちが将来も住み続けたいと思ってもらえるような地域づくりを推進します！

項目名・連携団体	事業内容等
青少年の健全育成活動の推進 青少年相談員、PTA、子ども会、小学校、保育所、住民 等	スポーツなどを通じ、子どもの体力の向上と協調性を育むとともに、子どもたちが外で群れて遊び、自ら育つ環境（遊び場・居場所）づくりを行うとともに、地域で子ども会や青少年相談員の活動などを支援する。 【活動例】 ・ドッジボール、ヘルスパレーなどのスポーツ大会の定期的な開催 ・子ども宿泊キャンプ体験学習の実施 ・子育て、青少年健全育成に係る啓発看板の設置 など
子どもたちの地域参加の推進 区、保育所、小学校、PTA、住民 等	地域を良くしたいという気持ちから子どもたち自らが自分たちにできることを考え、取り組むことを家庭・地域・学校の三者が連携し、支援する。 【活動例】 ・小中学生による定期的清掃美化活動、花植え運動、高齢者と児童との交流会の実施 など
小学校・保育所等との連携活動 区、小学校、保育所、PTA、住民 等	地域の子どもたちが通う小学校や保育所等と地域が連携したまちづくり活動を行う。 【活動例】 ・小学校や保育所行事と連携した交流イベントの開催

☆基本理念Ⅱ：互いに助け合い、

いきいきと暮らせるふるさとづくり【福祉・健康】

☆活動方針３：住民誰もが健康で、生きがいや充実感を持って暮らせる地域づくりを推進します！

項目名・連携団体	事業内容等
高齢者の見守り活動の推進 区、民生児童委員、地区社協、住民 等	高齢者やその家族が安心して生活ができるように、地域ぐるみで高齢者の見守り活動を行うとともに、活動を通して地域住民相互の交流を図る。 【活動例】 ・高齢者世帯への声かけなど見守り活動の実施 ・高齢者福祉活動に係るボランティア育成、支援 ・区単位で日常的に見守り活動が行える体制づくりの研究
高齢者の集いの場（生きがい）づくり 地区社協、地域活動団体、住民 等	高齢者の集いの場を提供し、心身ともに健康でいきいきと生活できる環境の整備を行う。また、高齢者の居場所づくりを展開することで、高齢者の家族が安心して生活できるようにする。 【活動例】 ・一人暮らし高齢者ふれあいサロン、地区敬老会の開催など、定期的な高齢者の交流機会の提供 ・趣味教室、地区文化祭（展覧会）の開催 ・地区文化（趣味）サークルの立上げ
健康づくりの実践の場づくり 地区社協、地域活動団体、住民 等	ラジオ体操、ウォーキング、グラウンドゴルフなど気軽に取り組める健康づくりの実践の場づくりを支援し、住民の健康増進を図る。 【活動例】 ・夏季ラジオ体操大会、健康スポーツ教室などの開催 ・ウォーキング大会、グラウンドゴルフ大会などの健康に役立つスポーツイベントの開催 ・地区婦人バレーボールなど、既存活動への支援 ・専門家による講演会、研修会などの開催

☆基本理念Ⅲ：安全で安心して暮らせるふるさとづくり

【防災・防犯・交通安全】

☆活動方針4： 防災意識の高揚と地域ぐるみの防災活動を推進します！

項目名・連携団体	事業・内容・主体等
地域防災体制の確立 区、消防団、住民等	各区における自主防災組織の設立及び育成を支援するとともに、地区全体の防災体制のあり方等について検討する。 【活動例】 ・自主防災組織設立に関する説明会の開催 ・地域防災体制を考える検討会議の設置、開催
防災訓練等の開催 区、消防団、地域活動団体、住民等	行政、関係機関などと連携しながら、防災に関する各種訓練や専門家を招いた講習会等を開催し、知識や技術及び住民意識の向上を図る。 【活動例】 ・消防署による防災訓練、応急救命講習会等の開催 ・災害時炊き出しボランティアの募集、炊き出し訓練の実施 など
災害対応マニュアルの作成 区、消防団、地域活動団体、住民等	避難場所の確認や非常時持出し品、備蓄品準備、災害時の対処方法、各種連絡先一覧など身近な対応策をまとめた災害対応マニュアルを作成することにより、地域の自主防災力を高める。 【活動例】 ・地域（自治会、各種団体等）間緊急連絡体制の整備 ・災害対応マニュアルの作成
災害弱者の把握 区、民生児童委員等	自治会などが中心となって、地域内の一人暮らしや高齢者世帯などの災害弱者の把握について検討し、災害時の迅速な救出活動につなげる。 【活動例】 ・「町内会名簿」、「災害時要援護者登録制度」等の検討
危険箇所の把握 区、小学校、住民等	自治会などが中心となって、地域内の危険箇所などの把握を行い、その結果をマップに落とし込み、全世帯へ配布する。地域だけで対応できないことについては、行政へ提言し、早期解決を図る。

☆活動方針5：地域ぐるみで犯罪や交通事故のない地域づくりを推進します！

項目名・連携団体	事業・内容・主体等
通学時見守り・防犯活動の推進 交通安全協会、防犯ボランティア、PTA、小中学校、青少年相談員、住民 等	防犯パトロール活動を拡大するとともに、子どもたちをはじめ住民への声かけも行う。 また、不審者の出没や認知症高齢者の搜索等々、「いざ」というときに情報の迅速な伝達や収集を行い、地区内を巡回するなどの対応をする。 【活動例】 ・学校支援ボランティア、健康づくりを兼ねた“散歩パトロール”や“自転車パトロール”等個人ボランティアの募集及び活動支援 ・「子ども110番」宅の設置推進 ・青色回転灯装着車パトロール活動の拡大
防犯・交通安全意識の啓発 交通安全協会、防犯ボランティア、駐在所、小中学校、住民 等	研修会の開催や広報紙による啓発、標語募集を行うなど、防犯や交通安全に関する住民意識の向上を図る。 【活動例】 ・駐在さんによる防犯、交通安全教室の開催 ・標語募集、看板等の設置による意識啓発
地域防犯・交通安全体制の充実 区、交通安全協会、防犯ボランティア、駐在所、住民 等	防犯、交通安全に係る活動団体や警察との連携による地域防犯パトロール・交通安全体制の強化を図る。 【活動例】 ・各種団体の活動PR、担い手の確保・育成の支援 ・地域防犯体制を考える検討会議の設置、開催
注意箇所の把握 区、交通安全協会、防犯ボランティア、小学校、住民 等	交通や防犯の注意箇所や避難場所等を歩いてチェックし、その結果をマップに落とし込み、全世帯へ配布する。 地域だけで対応できないことについては、行政へ提言し、早期解決を図る。

☆基本理念Ⅳ：豊かな自然と農業を守り、次世代につなぐふるさとづくり
【地域振興】

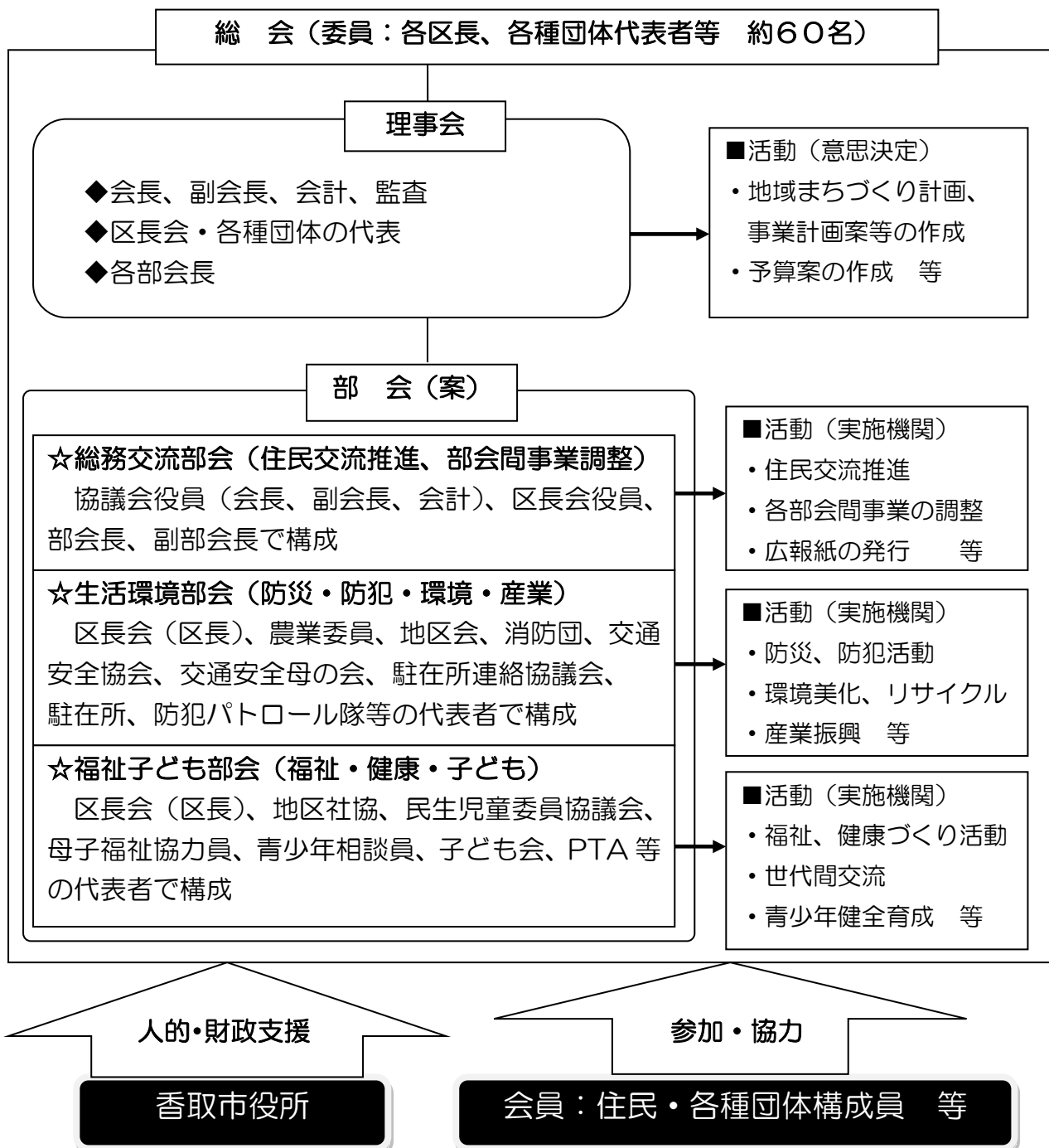
☆活動方針6：地域の自然や農業を守り、次の世代への引き継ぎを推進します！

項目名・連携団体	事業・内容・主体等
環境美化運動の推進 区、地域活動団体、住民 等	定期的な美化清掃活動やごみの減量化を地域ぐるみで推進する。 また、ごみが多く捨てられている箇所の調査、不法投棄防止、ごみの分別などの環境課題に関する啓発を行う。 【活動例】 ・地域合同ごみゼロ運動（年1～2回）の実施 ・公園、通学路等の清掃、草刈り、障害となる木枝の伐採など定期的清掃活動の実施 ・環境保全団体と連携した環境美化活動 ・防犯パトロールを兼ねたごみ拾いボランティア支援 ・環境美化に係る標語の募集、看板の設置等による意識啓発 ・花いっぱい運動の推進、花づくり講習会の開催 ・バザー、フリーマーケットの開催
地域産業（農業）の振興 農業関係団体、住民 等	地産地消の推進、遊休農地の有効活用などにより、地域産業（農業）の振興を図る。 【活動例】 ・各種地域行事などと連携した青空市、朝市の開催 ・特産品「水郷梨」のPR ・遊休農地を活用し、高齢者と子どもと一緒に作物を栽培し、交流する「ふれあい農園」の設置 ・新たな農業の担い手の育成に係る調査、検討 ・地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討

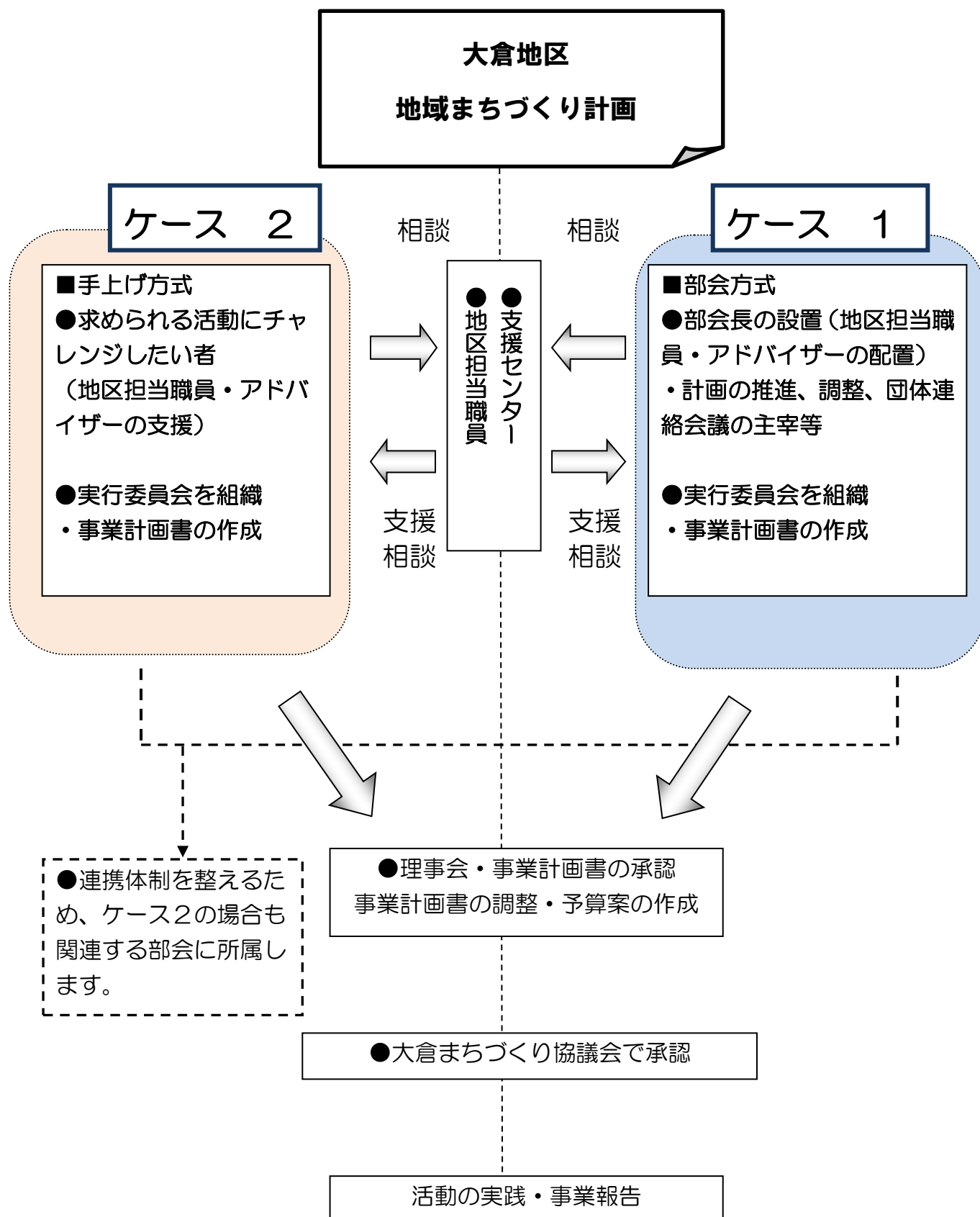
8 推進体制

大倉まちづくり協議会は、地域の課題解決のために、地区内の住民や各種団体が話し合い、調整、実践していく場として位置づけ、住民や各種団体等が互いの持ち味を活かしながら、横につながり合い、将来像や活動目標の実現に向けて、協働で計画を推進していきます。

■大倉まちづくり協議会の組織構成図



地域まちづくり計画実践の流れ（イメージ）



むすびに

平成１８年３月の合併により、香取市の行政区域は拡大しましたが、各地区においては、自治会や各種団体が主体となり、まちづくりに取り組んできた地域性があります。

まちづくり協議会は、それらの地域性を尊重し、住民の皆さんが自発的に地域の課題に取り組むことができる仕組みです。

住民アンケートでの回答の中には、災害時どう対応したらいいのかわからない、一人暮らし高齢者の生活が心配、通学路が危険、ゴミのポイ捨てが目立つなど、住民の方々から地域の課題について多くの意見をいただきました。

これらを地域の課題として捉え、大倉地区一体となって考え、行動し、また行政と役割分担しながら連携・協力して地域課題を解決したり、地域の明るい将来を実現させるのがまちづくり協議会です。

『大倉まちづくり協議会』は、本計画書に基づき、大倉地区の目指す将来像の実現に向けて、住民どうしの絆を深め、皆さんの知恵と力をお借りしながら、今後の活動を進めたいと思いますので、住民の皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

設立総会



設立総会



地区別まちづくり座談会



地区別まちづくり座談会



地区別まちづくり座談会



地区別まちづくり座談会



資 料 編

目 次

- 1 地域まちづくり計画策定経過・・・・・・・・・・・・・1
- 2 地域まちづくり計画策定委員会設置要綱・・・・・・・・・・・・・2
- 3 地区別まちづくり座談会関係資料・・・・・・・・・・・・・5
- 4 住民アンケート調査関係資料・・・・・・・・・・・・・17
- 5 住民アンケート調査 自由意見・・・・・・・・・・・・・23



【千葉県指定文化財】側高神社本殿（独自の構造を持つ本殿）

大倉まちづくり協議会 地域まちづくり計画策定経過

期 日	会 議 名 等	内 容 等
24年 12月1日	設立総会	・大倉まちづくり協議会の設立について ・24年度事業計画・収支予算について
12月～ 25年1月	住民まちづくり アンケート調査	・大倉地区内の全世帯対象に、地区の課題や今後、取り組むべき内容等に関するアンケート調査を各区長の協力のもと実施
1月～2月	住民アンケート調査 結果の集計・分析	・まちづくりアンケート調査結果の集計及び回答結果を分析
2月12日	地区担当職員連絡 会議	・計画策定スケジュール、まちづくり座談会の開催方法等について打合せ
2月15日	24年度理事会	・アンケート集計・分析結果報告について ・地域まちづくり計画策定について
2月22日	地区別まちづくり 座談会（東部地区）	・地域の課題、将来像及び協議会活動の方向性等について、大倉地区を2つのグループに分けて、ワークショップ形式で意見交換を実施
2月23日	地区別まちづくり 座談会（西部地区）	
2月下旬	協議会だより臨時号 （各戸配布）	・アンケート調査結果等計画策定状況について地域住民へお知らせ
3月8日	第1回 計画策定委員会	・委員長、副委員長の選任 ・まちづくり座談会結果報告 ・地区の課題、協議会の基本理念、活動方針、主な取り組み等について
4月10日	第2回 計画策定委員会	・まちづくりの全体テーマについて ・25年度事業について ・部会の設置等推進体制について
5月22日	25年度 第1回理事会	・地域まちづくり計画（案）の協議 ・その他総会提出議案に係る協議

地域まちづくり計画策定委員会設置要綱

（設置）

第1条 大倉まちづくり協議会（以下「協議会」という。）の地域まちづくり計画を策定するため、地域まちづくり計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

（組織）

第2条 策定委員会の委員は、協議会の委員の中から、協議会の会長が指名した者をもって組織する。

（所掌事務）

第3条 策定委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- （1） 地域まちづくり計画に係る調査及び研究に関すること。
- （2） 地域まちづくり計画の作成に関すること。
- （3） その他第1条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（委員長及び副委員長）

第4条 策定委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の中から、会長が指名する。

3 委員長は、策定委員会を主宰し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（招集及び会議）

第5条 策定委員会は、委員長が招集し会議の議長となる。

2 策定委員会の会議に必要と認めるときは、会議に所属する以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

（会計）

第6条 策定委員会の経費は、市補助金及びその他の収入をもって充てる。

（委任）

第7条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営等に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

1 この要綱は、平成25年2月15日から施行する。

2 この要綱は、策定委員会の設置の目的が終了した時点をもってその効力を失う。

大倉まちづくり協議会 計画策定委員会 委員 (敬称略)

No.	氏 名	地区等	所属団体等	役 職
1	田中 房恵	大倉丁子	子ども会育成連合会	
2	本宮 太一	大倉丁子	大倉地区会 会計庶務	
3	戸村 耕夫	側 高	区長	
4	石田 勝之	側 高	大倉駐在所連絡協議会	
5	鈴木 啓之	丸 峰	区長（区長会副会長）	委員長
6	鎌形 善枝	丸 峰	母子福祉協力員	
7	鎌形 幸輝	市 神	消防団	
8	鎌形 千春	市 神	香取市地域振興事業審査会	
9	小沼 博	代 下	区長	
10	増田 富枝	代 下	民生委員・児童委員	
11	増田 忠	今 市	自治会長（区長会会計）	
12	木内 昭夫	中 郷	区長（区長会長）	副委員長
13	向後 吉男	中 郷	地区社協 会長	
14	鎌形 嘉栄	本 西	区長	
15	鎌形 裕章	大倉新田	区長	
16	石橋 隆寿	大倉新田	大倉小学校 PTA 会長	
17	高内 茂	大倉新田	青少年相談員	
18	萩生田 勝政	水郷団地	区長	

※策定委員会 オブザーバー (敬称略)

No.	氏 名	地区等	所属団体等	協議会役職
1	鈴木 重雄	中 郷	大倉区長会選出	会 長
2	多田 日出夫	代 下	大倉駐在所連絡協議会	監 査
3	高橋 新一郎	大倉新田	民生委員・児童委員	監 査

※地区担当職員

No.	氏 名	地区等	所属部署（平成 25 年 4 月）
1	伊藤 勝重	大倉丁子	建設水道部水道管理課
2	飯田 富茂	丸 峰	教育部学校教育課
3	鈴木 典子	丸 峰	市民福祉部子育て支援課
4	石橋 健吉		建設水道部都市整備課
5	戸村 仁美	側 高	企画財政部税務課



※ワークショップの開催にあたって

本日の会議は、ワークショップ形式で開催します。

ワークショップでは、「参加者同士が創造的な発言を自由に行って意見交換をし、立場や意見の違いを相互に理解し合う中で、問題を解決するための合意形成を図っていくこと」に重点が置かれています。

このため、共通ルールとして、以下の基本原則に則って会議を進めます。

1) 禁止事項の3原則 — 「非難なし」、「肩書きなし」、「文句なし」 —

「非難なし」・・・意見を出し合う場面において、人の発言への非難を禁止

「肩書きなし」・・・参加者の肩書きは、意識しない。

「文句なし」・・・グチよりも課題解決に向けた話し合いを

2) 班編成 — 全員が発言できるよう少人数の班を編成します —

全員が発言できるよう参加者を5～10人程度の班に分けます。

3) 司会進行 — 各班の司会が議事を進めます —

司会者は、地区担当職員、又は支援センター職員が務めます。

司会者は、参加者の発言機会が均等に与えられ、それぞれの発言が平等に扱われるよう議事を進めます。

4) テーマごとに話し合い — 和やかな雰囲気の中で話し合います —

地域の課題や将来像、今後の取り組むべき活動等について、それぞれの参加者の年齢や社会的立場にとらわれることなく、対等な関係で話し合います。

5) 意見を出し合い、グループ化 — できる限り多くの（率直な）意見を —

できる限り多くの意見をいただくため、個人で考える時間を設定します。

付箋紙に各自の意見・提案などを書き込んだうえで、発言してもらいます。

また、その付箋紙を模造紙に貼り、グループ化の作業をします。孤立した意見や対立する意見が出た場合でも、貴重な意見として尊重します。

6) 最後に、各班の話し合いの結果を発表 — 全員の共通理解を図ります —

参加者全員の共通理解を図るため、各班で話し合われた内容について、各班5分程度で発表します。

ワークショップの具体的な進行方法について

1 「地域の現状・課題について」 (約15分)

- (1) “気になる現状” [悪いところ・困っているところ] ⇒ 赤色付箋
(2) “好ましい現状” [良いところ・このまま継続したいところ] ⇒ 青色付箋

各自意見を記入する。【1人各3枚以上目標】

現状”を赤色付箋紙に、“好ましい現状”を青色付箋紙に1項目ずつ簡潔に書き出す。(できるだけ具体的に)

■気になる現状は？(例)

地域活動に関わろうとする人が
年々少なくなっている

■好ましい現状は？(例)

各団体の活動が旺盛で、
地域に活性化されている

※行政に要望するような、道路や施設整備等に関する意見は除く。

2 「地域の現状」について、付箋紙の内容を確認しながら、共通理解を図り、整理する。(約20分)

- 記入した意見を各自披露しながら、分野に分け、模造紙に付箋を貼り付けていく。分野ごとに見出しをつける。

【具体的な検討項目】

- ・防災 ・防犯 ・健康、高齢者福祉 ・生活環境
 - ・子ども(安全、教育、子育て、子ども会、世代間交流 など)
 - ・住民交流・地域コミュニティ(区や団体等の組織、運営のルール、スポーツ、レクリエーションイベント、あいさつ、雰囲気 など)
 - ・産業(農業、特産品、働く場、新たな産業の創出 など)
 - ・交通(鉄道・バス等、道路、利便性、自転車、歩道、安全性など)
 - ・文化、歴史(伝統文化、文化財、など) など
- ・抽象的な表現や単語のみの表現の時は、付箋貼り付け時に、進行役が適宜、質問等により補足を加え、具体的に記入する。
 - ・複数分野に関係する意見は、主と思われる分野に貼り付けする。

3 「こんなことをしたい」&「あんなことをしてほしい」！（約15分）

〔今後、自分たちでやってみたい（やるべき）と思うこと〕 &
〔誰かにやってもらいたいこと、続けてもらいたい活動など〕

⇒ 黄色付箋

- ・地域のいいところをさらに伸ばすために必要な活動は？
- ・地域の課題解決のために必要な活動は？
- ・現在の活動を基に、続けて（発展させて）もらいたいことは？

などの観点から、各自意見を記入する。

これまで話し合ってきた「地域の現状・課題」を踏まえ、地域で取り組む具体的な活動内容について、どんな取り組みや活動が必要かについて、各自意見を記入する。

■具体的な活動内容・取り組みテーマ（例）

災害の時など、地域で助け合うことができるシステムの構築

住民誰もが安全・安心して暮らせる防犯活動の実施

魅力ある行事の開催など地域で集まる機会を増やす。

もっと地区の人々の参加を増やし、子どもの見守りを強化する

住民の健康づくりに継続して取り組める仕組みをつくる。

通学路の清掃や草刈りなど、もっと地域での環境美化活動を充実させる。

○具体的な（案）があれば、
「～のための活動（運動）として、定期的に（毎日・年1回）～をする。」

○具体的な（案）がなくても、
自分たちの地域を将来どのようにしていきたいかという「地域の将来の姿」について、「☆☆☆な地域（になったらいいな!）」などのような言葉でもOK

※10年、20年後、地域がどうあるべきか、どうなら住みやすいかを想像する

4 「こんなことをしたい」&「あんなことをしてほしい」！について、
お互いの意見を出し合う、聞き合う。（約20分）

- ・記入した意見を各自披露し、分野ごとに、付箋紙を貼り付ける。
- ・相対的に意見が多く出た分野など特に取り組む必要がある課題、将来像及び今後の活動等について総括して終了する。

午後8時20分から各班の発表時間とするため、それまでに話し合いを終了する。

6 「地域の現状」、「こんなことをしたい」&「あんなことをしてほしい」！
について話し合った概要を各班の進行役が発表する。（各班5分以内）

- ・各班で出された意見（主なもの、みんなが気付いていなかったもの等）を分野ごとに、発表する。（簡潔に）

大倉まちづくり協議会 地区別まちづくり座談会で出された意見等

1 安心・安全・防災・防犯について	
現状・課題	【気になる現状】
	(防災)
	・高齢者等の災害弱者への対応 ・災害時の避難での助け合い ・危険箇所の点検と対策 ・防災倉庫がない ・避難場所が大倉小学校であることが適当なのか疑問 ・消防団員の担い手不足
	(防犯)
	・不審者が出没する ・不審者情報がある ・田畑での盗難がある ・防犯灯が少ない ・大倉新田地区の通学路が危険 ・通学路に危険箇所がある ・夜の人通りや明かりが少なく、防犯面で不安を感じる
	(交通安全)
	・国道の交通量が多く、歩行者にとって危険 ・狭い道路なのに、速度を上げて走る車両が多く、危険を感じる ・ダンプ車両の通行が多い ・道路の傷みがひどい ・側高7号線、ダンプカーが多く危険 ・国道356号の鹿島線付近の杉の隠れた木が風が吹くと危険 ・代下から中郷に行く坂道の周辺で木が茂っているところがあり、車の走行の障害とともに、子どもたちの通学路にもなっていて危険
	【好ましい現状】
	(防犯)
	・犯罪の発生が少ない ・近所同士のコミュニケーションが取れていて、治安が良い ・防犯対策はだんだん良くなっている ・防犯パトロール隊（中郷、新田、水郷団地）が良く活動している

今後取り組むべき活動	(防災) ・防災訓練の実施 ・災害時の避難での助け合い訓練 ・行政と自治会の主導による定期的な一体訓練の実施 ・災害時の隣近所の助け合い、支え合い ・災害時の拠点づくり ・地区防災体制の見直し ・防災倉庫の設置 (防犯) ・現在行われている防犯パトロール隊の活動の継続 ・子どもの見守りを行っている大倉駐在所連絡協議会の活動の継続 ・消防団との連携による夜警の強化 ・ボランティア（または自治会）で防犯パトロール隊を組織する ・防犯カメラの設置及びその表示（大きな看板で） ・小学生の登下校時に合わせて散歩に出してもらう (交通安全) ・子どもが安全に生活できるまちにしたい
------------	---

2 生活環境について	
現状・課題	【気になる現状】 ・ごみ出しのルールを守らない（マナーが悪い）人がいる ・ごみステーションに指定日・袋を守らずに出してある場合がある（他地域の人が捨てている？） ・道路へのポイ捨てが多い ・隣町との境でのごみ問題 ・ミツカン跡地のごみステーションがなくなった ・車や事業所などの騒音が気になる ・6トン導水路周辺の道は良くなったが、水自体は年々悪くなっている ・若者の働く場所がなく、住みにくい ・商店は、肉屋さんと魚屋さんが各1軒あるだけ。とても不便で寂しい地域となりつつある

	【好ましい現状】 ・（多）自然が豊か（自然環境に恵まれている） ・ホタルやめだか（中郷）、カワセミ（流れ川）がいる ・生活するうえでの環境が良い ・地区会など、年１～２回ごみゼロ運動をしている ・クレームが少ない ・タウントレイル（散歩するルート）が多数ある ・温暖で住みやすい ・農産物が新鮮である ・コンビニ、ホームセンターが割と近くにある
今後取り組むべき活動	・（多）地区全体での環境美化活動（除草、ごみ拾いなど） ・大倉地区全体で美化デーを設定する ・クリーン作戦、草刈り作業の継続 ・通行上支障となる木枝の伐採 ・通学路の歩道が春先になると草だらけで歩きづらそうなので、時々草刈りを行ってくれると良い ・ごみ出しのマナーを守るよう呼びかける掲示物の設置 ・ごみ出しマナーの研修（正しい分別方法を知らない人がいるかも・・・） ・ごみのポイ捨て、不法投棄等の監視を強める（取締り強化） ・里山の整備 ・名所をつくる（例：水路沿いに桜などの植樹） ・お散歩ルートを開拓し、スタンプラリー等による歩け歩け大会の開催

	3 健康・高齢者福祉について
現状・課題	【気になる現状】 ・（多）高齢化が進んでいる（高齢者の増加） ・高齢者世帯の増加 ・高齢者クラブがない ・高齢者の交流の場（楽しめるイベント）がない ・独居老人や高齢者だけの世帯に対する見守りが必要 ・高齢者の買い物、通院等の足がない（交通の便が悪い） ・どこに行くにも車が必要で、高齢者世帯は住みにくい ・高齢者世帯が多くなり、買い物等に困っている（買い物難民） 以前、移動スーパーが来てくれて助かったが、短期間で終わってしまった ・車のない方があって、病院に行くのが困っている方が多い ・ゴミステーションまで運べない方もいる 【好ましい現状】 ・隣近所で高齢者を見守っている
今後取り組むべき活動	【今後取り組むべき具体的活動等】 ・高齢者世帯への近所の目配り、定期的な訪問（声かけ） ・高齢者世帯への定期的な見守り ・隣近所の見守り推進 ・独居高齢者を重点にした訪問活動 ・高齢者が楽しめるような企画など、高齢者のふれあいの機会の提供 ・ゲートボールクラブ、グラウンドゴルフクラブなど、お年寄りが交流する場の提供 ・高齢者クラブの復活 ・健康体操教室の開催 ・グラウンドゴルフなど健康づくりの取組みを定期的に行う ・通院や買い物など高齢者等の移動手段の確保 ・電車、バスに代わって、マイクロバスによる送迎方式へ

4 子ども・教育について	
現状・課題	【気になる現状】 ・（多）少子化が進んでいる（子どもの減少→ 独身者が多い？） ・（多）子どもの遊び場がない（公園など） ・通学路の歩道の安全性 ・子ども同士遊ぶ機会が少ない ・あいさつができない子どもが増えた （廃品回収時に声かけなしで持っていってしまう） ・子どもとふれあう場が少ない ・学校と地域の連携が必要 ・学校再編により、大倉小学校がなくなってしまうかもしれない ・小学校再編問題 【好ましい現状】 ・地域住民の小学校教育に対する意識が高い ・子どもたちが純朴である ・子どもたちが集団で登校する姿が良い
今後取り組むべき活動	・あいさつについて、子どもの作った標語を看板にして設置する ・地域で子どもを見守り、育てる（あいさつ、看板設置など） ・彦一風づくり（大人が子どもたちに教える） ・昔の遊び体験教室（イベント）の開催

5 住民交流・地域コミュニティについて

現状・課題

【気になる現状】

- ・地域の交流（イベント）がない
- ・大倉住民が全員集まって楽しめる行事がない
- ・大倉地区全体の交流の場がない（地区運動会など）
- ・地域全体でのコミュニケーションの場がない
- ・地域間のつながりが希薄になっている
- ・各区との共同作業がない
- ・地域活動に携わる人が少ない
- ・少人数の世帯が多い
- ・町内の付き合いが少なくなっている
- ・中高年のまとまり
- ・特に若い世代の近所（地区）のつながりがない
- ・他の町内のことや世代の違う人たちがどのような活動をしているかわからない
- ・独身者が多い
- ・以前に比べ、住民全般において、あいさつを忘れているようだ
- ・イベント、行事の情報が入りにくい
- ・香取市になっても、水郷団地内が佐原区と小見川区に分割されたままである
- ・コミュニティセンターが老朽化しており、建替えが必要だが、資金面で苦慮している
- ・大倉の歴史について詳しく知る人がいない
- ・大倉の歴史をまとめた資料がない
- ・神楽がなくなった
- ・神輿はあるが、使われていない

【好ましい現状】

- ・地域としてのまとまりが良い
- ・近所での助け合いができています
- ・地域の絆が強い
- ・町内ごと、団体ごとの活動がまとまっている
- ・昔の古い習慣をどんどん改善していこうという考え方があり、生活改善運動がすすめられている
- ・地域全体がのんびりしていて、住みやすい
- ・住民は素朴で、人柄も温かい
- ・清掃活動等地区事業に参加する住民が多い
- ・必要以上に干渉されない
- ・伝統行事が比較的多く残っている（ひげなで祭り、神幸祭など）
- ・昔からのお祭りが今でも残っている

今後取り組むべき活動	・（多）世代間交流の場をつくる（綱引き大会、地区対抗運動会・・・） ・（多）地域全体での楽しめる行事（レクリエーション）の開催 （納涼祭、グラウンドゴルフ大会など老若男女問わず参加できるイベント） ・（多）地区全体でのスポーツ大会 ・子どもから高齢者まで楽しめるスポーツ大会 ・大倉地区婦人バレーボールの継続、発展 ・今あるイベントで参加者を幅広く ・大倉の祭りを側高、丁子ともにもっと盛大にしていきたい ・地区に伝わる祭りごと等を子どもたちと一緒に続けていくこと ・“てんじんこう”の復活 ・よさこい、収穫祭などの実施 ・お年寄りたちによる昔語りの会の開催 ・（多）学校施設や各地区の公民館等の有効活用 ・家に閉じこもらないで、外に出かけたくなるような地域に ・各地区で年1回、道刈りを実施・継続し、きれいなまちづくりに心がける ・草刈りや地区総会で集まったときに、交流が図れるようにしたい ・あいさつが地域でもっとできるようになれば良い ・子どもたちや高齢者への声かけをみんなで推進する ・地区の祭り、行事の継続（義務的に参加するのではなく、進んで参加したくなるようなものにする） ・大倉歴史研究会の設立（歴史年表の作成、CD-Rやホームページの作成、年1回のイベントでの発表会） ・SNSなどの活用で大倉ディスカバリー ・独身男性の婚活を支援（青年団見合い・・・）
-------------------	---

	6 その他
現状・課題・今後の活動等	【気になる現状】 ・（多）買い物が不便（店がない） ・バス路線等の公共交通手段が少ない ・農家の後継者がいなくなり、廃業するところが年々増えている ・水郷梨をつくる農家が減っている 【今後取り組むべき活動】 ・“買い物難民” 対策 ・若い農業従事者を広報で紹介する ・水郷梨のPR ・水郷駅前の信号機が感應式になると良い

【調査票・個人用】

～暮らしやすく、愛着の持てるふるさとづくりを目指して～

大 倉 ま ち づ く り ア ン ケ ー ト 調 査

ご協力をお願いします！

24年12月1日、香取市まちづくり条例に基づき、区長会をはじめ各種団体の横断的な連携・情報交換を図り、地域の様々な課題を解決する「大倉まちづくり協議会」を設置しました。

協議会では、「大倉地区 地域まちづくり計画」を策定し、大倉地区の将来目標（どのような地域にしていきたいかという「まちづくりの目標」）を立て、その目標に向かって様々な活動を展開していこうと考えています。

つきましては、上記計画を作成するにあたり、大倉地区にお住まいの皆さんの意見を大切に、反映させることが重要であることから、地域住民の皆さんの意見を伺うため、アンケート調査を実施いたします。

お忙しいところ恐縮ですが、以下の点に気をつけていただき、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

◇記入にあたってのお願い

- この調査は、年代や男女の別など幅広く皆様から意向を伺いたいと考えております。したがって、今回、各世帯へ2部ずつ調査票を配布いたしますので、高校生以上の世帯員2名のアンケートをお願いします。
なお、単身世帯の方は、調査票1枚のみの記入をお願いします。
- この調査票は、封筒表面に記載のとおり区長、又は区役員等が回収しますので、そのときにご提出いただくか、各自で区長、又は区役員等までお届けください。
- なお、このアンケート調査で得られた回答データ及び個人情報については、当協議会の活動以外の目的には一切使用しません。

【問い合わせ先】

香取市佐原市民活動支援センター（香取市役所2階）

担当 浅野、大竹

☎50-1213

Fax52-4566

大倉まちづくり協議会

アンケートをご回答いただくにあたって・・・

- ・選択方式の場合は、該当する欄の数字のところを、○でお囲みください。
- ・「複数回答可」の欄は、該当する欄のすべてを、○でお囲みください。
- ・（ ）欄は、記述になっていますので、それぞれのお考えなどをご記入ください。
- ・アンケートの設問内容がわからなかったり、難しいところがあれば、わかる範囲でご回答ください。（むやみに○を入れず、無回答にしてください。）

問1 お住まいの地区は、どこですか？

- 1：大倉丁子 2：側高 3：丸峰 4：市神 5：代下
6：今市 7：中郷 8：本西 9：大倉新田
10：水郷団地

問2 性別は、どちらですか？

- 1：男 2：女

問3 あなたの年齢は、満何歳ですか？

- 1：15～18歳 2：19～29歳 3：30～49歳
4：50～64歳 5：65～74歳 6：75歳以上

問4 同居の家族は、あなたを含めて何人ですか？

- 1：1人 2：2人 3：3人以上

問5 大倉地区に住んでいる理由は、何ですか？

- 1：生まれも育ちも大倉地区（若い頃に一時的に他地域に住んでいた人も含む。）
2：結婚した相手が大倉地区出身者だった。
3：新たな居住地として、大倉地区に住んでいる。
4：その他（ ）

問6 大倉地区は、住みやすい地域だと思いますか？

- 1：思う
- 2：思わない
- 3：わからない

問7 大倉地区の治安は良いと思いますか？

- 1：良いと思う
- 2：以前と比べると、悪化していると思う
- 3：わからない

問8 これからも大倉地区に住み続けたいと思いますか？

- 1：ずっと住んでいたい
- 2：当面は住みたい
- 3：いずれは他地域に移りたい(理由：)
- 4：わからない

問9 自分の子や孫にも将来大倉地区に住んでほしいと思いますか？

(お子さんがいらっしゃらない場合は、いると想定してお答えください)

- 1：ずっと住んでほしい
- 2：他地域に住んでもよい
- 3：若いうちは他地域でも構わないが、いずれは住んでほしい
- 4：わからない

問10 大倉地区の将来を考えるうえで、重視すべきことは何ですか？

(複数回答可)

- 1：近所や地域のつきあい・助け合い
- 2：個人のプライバシー
- 3：青少年の健全育成
- 4：子どもの安心・安全の確保

次ページへ続く

- 5：子育て支援活動の充実
- 6：高齢者の生きがいや健康づくり
- 7：祭りやイベント、スポーツ等を通じた地区住民の交流
- 8：住民の健康維持や介護予防のための取組み
- 9：地域の清掃活動、ごみのポイ捨て解消などによる生活環境の改善
- 10：田園景観、水辺や緑などの自然環境の保全
- 11：震災、水害、火災などに対する防災対策
- 12：治安維持のための防犯対策・防犯活動
- 13：歴史や文化の保存・継承
- 14：農業後継者の育成（農業の振興）
- 15：雇用の場の確保
- 16：通院や買い物など“生活の足”の確保（バスなどの公共交通の充実）
- 17：地域を担う人材の育成
- 18：ボランティア活動の推進
- 19：その他（ ）

問11 少子化は、大倉地区においては深刻な問題です。

そんな中で、地域で、できることは何だと思いますか？（複数回答可）

- 1：若者が地域に定着できるよう、魅力ある地域づくりを行う
- 2：子ども時代に地域の自然の中で遊び、学ぶことにより、地域への愛着心を育む
- 3：祭りなどの地域行事を通じた地域住民のコミュニケーションを充実させ、人と人とのつながりを大切にした地域づくりを行う
- 4：地域全体で大倉地区の子供たちを育て、見守り、子育てがしやすい環境づくりを行う
- 5：少子化対策は全国的に行われていても解決に至っていない難しい問題であるので、地域でできることはない
- 6：わからない
- 7：その他（ ）

問12 地区の安全対策として、地域で行えば良いと思うことは何ですか？

（複数回答可）

- 1：子どもの通学の際の見守り活動
- 2：高齢者世帯の健康確認を含めた見守り活動

次ページへ続く

- 3：災害時における要援護者の把握と援護体制づくり
- 4：地区全体で毎年、防災訓練を行い、地震などの自然災害や火事などに備える
- 5：高齢者を対象にした交通安全教室や防犯教室の開催による意識啓発
- 6：安全・安心対策は各自で行うことであり、地域が行うことではない
- 7：その他（ ）

問13 高齢者福祉に関することで、地区にあったらいいと思うサービス（事業）はありますか？（複数回答可）

- 1：高齢者などを対象にした昼間の見守り活動
- 2：趣味の活動の場など、多くの方とふれあえる機会の提供
- 3：好きなときに集まり、交流ができる（交流サロンなど）の開設
- 4：健康維持や介護予防のための健康教室の開催
- 5：病院や買い物などへの送迎サービス
- 6：高齢者と同居していないので、わからない
- 7：その他（ ）

問14 まちづくりというと、どのようなイメージがありますか？

- 1：行政が主体的に進めるもの
- 2：一部の人たちが行っているもの
- 3：住民が主体的に行うもの
- 4：住民と行政が協働で行うもの
- 5：わからない

問15 これからのまちづくりには、住民参加が不可欠だと思いますが、あなたは、どのようにお考えですか？

- 1：何事にも積極的に参加したい
- 2：内容や頻度等によっては、積極的に参加したい
- 3：頼まれれば、可能な範囲で参加・協力したい。
- 4：関心がない
- 5：わからない
- 6：その他（ ）

問１６ あなたは、「大倉まちづくり協議会」が設立されたことを知っていましたか？

- １：知っていた
- ２：知らなかった

問１７ 地区で解決することが必要と思われることについて、具体的なご意見やアイデアがありましたら、ご記入ください。

●地区で解決したほうがよいと思われる課題など

●地区の課題を解決するためのアイデア・意見等

（例：大倉地区住民相互の親睦を深めるため、地区運動会を開催する など）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。今後の「大倉まちづくり協議会」の活動に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大倉まちづくり住民アンケート調査 自由意見

平成24年12月～25年1月 実施

防 災

- ・天災等大きな災害時に対応するマニュアル策定
- ・災害に備えて十分な物資を用意しておくことが一番
- ・震災等の災害に対応できる、充実した教育施設が必要
- ・地域の防災訓練（消火栓の取扱い等）
- ・避難所の明確化 → 看板の設置
- ・災害時の避難場所の変更
- ・有事の際の連絡網の確立
- ・安全な避難場所確保と毛布、水、発電機などの物資を完備
- ・地震や津波の心配を考えると、別の場所の高台に住んでみたい
- ・地区内が地下水のため、消火栓が1か所だけで済まず、整備してほしい

防 犯

- ・地域ぐるみの防犯体制の確立
- ・子ども110番の家の設置推進
青パトによる防犯パトロールを実施する。特に問題の発生した箇所を重点的に実施
- ・外灯設置、道路整備 ・防犯灯の設置
- ・子どもから高齢者までの幅広いつながりを保つための会、ふれあいの場をつくり、顔見知りになるところから…コミュニティセンターなどの活用→地域の防犯教室

交通安全

- ・国道は交通量が多く、歩道、歩きづらい。トラック、ダンプ等のスピードを抑えるルール改正も必要ではないか

- 国道３５６号線の交通量が多く極めて危険
- 国道３５６号沿いは歩道も狭く歩くのが怖い。（トラックの通行量が多い）自転車も通れるようにしてほしい
- 通学路等の簡単な整備、清掃等は地区で行う
- 水路の道は、中学生の通学路にもなっているので、自動車がスピードを出して走るのを見るので危険！！「歩行者、自転車を安全に」看板等を立てること。事故が発生してからでは、あとのまつり
- 夜は大変暗く、危険が多い
- 冬は、道路の凍結箇所があって非常に危険
- 交差点のカーブミラーが少ない
- 側高神社の坂道は、ダンプカーが多く危険なので、住民も協力して安全のために何かしないといけないと思う
- 通学路を農道につくり、子どもの安全を確保してほしい。倒れる木、折れそうな木の枝、壊れそうな橋、欄干の補修等交通の安全、見通しの悪いカーブ、雑草の除去など
- 少なくとも年一度は、交通安全講習会を開催する
- 隣近所に迷惑がかからない、路上駐停車の仕方の指導、例えば、車庫出入口近辺、道路の曲がり角付近、道路の中央付近等々の例を上げての指導

環境美化・保全

- 家庭でゴミを燃やすこと。近所の人が迷惑している
- 生活環境の改善のために、家庭でゴミを燃やすことを止めてほしい。煙で嫌な気持ちになり不快。困っている。近所の人からは直接言えないので、行政から指導してほしい
- ごみ収集日以外にもごみが置かれている
- 不法投棄ゴミが高速下などに投棄されているので、捨てさせない監視活動をした方がよい
- 自然環境への配慮。保全意識の向上
- 動物の飼い方、犬の糞の始末、所構わず田んぼのあぜ道や立札があっても無視している
- 大倉地区全体の美化デーを設定（年２回程度）し、ごみ収集車等に出動して

もらい、当日にゴミの処理をできるようにしたい

- ゴミの捨て場所を看板や曜日の表示などわかるようにしていくこと
- 川遊びがしたいけど、水が汚い

高齢者福祉

- 最近、特に独居老人が増加しているが、個人での見守りは難題が多いため、地区のみんなで見守る方法やコミュニティセンターを活用した集い等計画していただきたい
- 高齢者が外で簡単にできる遊びをして、なるべく話をする機会をつくる
- 年寄り（高齢者）に優しいまちづくり
- 老人世帯の訪問活動
- 地区内でお店がなくなったので、車に乗れない高齢者のためにも移動スーパーなど出来ると良い。（以前のような形で）
- グラウンドゴルフなどに集うお年寄りには、健康、情報交換、笑いなど、とても良い事があるが、それに参加できない方が心配。声掛けなどやっていきたい
- 高齢者のための健康維持、健康教室、軽いスポーツをしたい
- 健康体操の推奨及び病気に悩む方々の心のケアを地区全体で見守れるような場を設置
- 弁当宅配等
- 要援護者情報をプライバシーと考えている意識から脱却する取組みが先決。

少子化

- 極端に少子化になっていくが、子どもが健全に育っていくよう応援したい。
- 保育所や0歳児からの託児所を増やし、主婦が働ければ、生活に余裕も生まれ、少子化対策になると思う
- 若い女性が安心して子育て出来る環境作りが先決
- 安心して出産・子育てができる体制づくり
- 働く場を作り、子育てしやすい家族の時間を持てるよう行動等を簡素化する

ことだと思う

- 例えば、身内のいないシングルマザーが安心して子どもを預けられるお年寄りの方がいればいいと思う
- 雇用の場がない事。若い人の働く所がないので場を作りたい
- 若者が働ける場を作る • 働く場所の提供
- 就職口がないので、どうしても地域から出ていってしまう人が多くなってしまうと思う。近くに働く職場がある事が第一 → 土地の高効率活用、回転の速い農業、組立て作業を主とした家電等大企業誘致等
- 一番大切なことは、結婚成立させるような場を設ける。• 結婚の推進（相談・サークルの開設）
- 結婚をしていない真面目な人が多いので、出会いの場を作る。
- 男性の独身者が多いので、解決策を考えたい
- 少子化というが、大倉地区では、40～50 年前の元の大倉村に戻るだけのことのように思う。現状を見据えることが大事

子ども・教育

- 通学路と教育施設の充実
- 学校の登下校時の安全確保、見守り（子どもたちが安全で楽しく過ごせる地域づくり）
- 子供達が安心して遊べる場や通れる道などの整備
- 地区内に子どもが買い物できるようなお店があるとうれしい。勉強にもなるので。去年の「わいわい広場」は、時間帯と曜日の設定が難しく、なかなか行くことができませんでした
- 今現在、テレビやメディア等で大きな問題となっている“いじめ”問題。このような問題が発生しないようにするための情報収集
- 若者の育成、リーダーの育成が大切

小学校再編

- 地区の存立にかかる小学校の存続
- 保育園、小学校までの充実
- 大倉小学校が廃校となった時の通学方法
- 小学校統合問題・・・大倉小学校がなくなったら、少子高齢化がいま以上に進み、過疎化となり、まちづくり協議会と逆行するのでは？
- 小学校が大倉からなくなると、若者が大倉から出ていく心配がある。
- 小学校の統合で、子どもたちのふれあいが少なくなる
- 地区内に小学校があることによる子どもの地区離れのストップ！
- 市と共に学区の問題を考える。（特に大倉新田地区）
- 小学校再編問題が今、問題にされていますが、何が基準で津宮小への合併になるのかが理解できない。それならなぜ香取中を建て替える時点で小中一貫などは考えなかったのか？
- 津宮地区の津宮小は、香取中第 2 グラウンドに利用して、中学校の環境を充実させ、大倉地区では、保育園と小学校を地域のコミュニケーション活動や震災時に有効利用できるよう充実させていけたらいいと思う。
- 全国横並びの小学校統合ではなく、逆方向に進め特色のある教育を打ち出し、それをもって若いご夫婦に当地に住んでみたいと思ってもらうチャンスではないか？

地域コミュニティ

- 地区内でのリーダーが不足している
- 行事やしきたりを改善していく方向へ・・・
- 高齢者や子供が安全・安心して集まれる場所がない
- 小さな区に分割され過ぎ。区間の自治意識が高過ぎているので、まとまりがない。今後は、区の再編をすべき。また、人が少ないのに役が多すぎる。一人で何役もやっていて、十分役目を果たせていない
- 地域の役員や会合が多くて、仕事や家族への影響が大変。時代に合わないことが多くて、若者に居住は勧められない
- 近所の付き合い良くない
- 地区の古いしきたり行事が煩わしい

- 少数の意見が通る。女性の意見が反映されない
- 解決したいと思われる（意見）内容を地区に提案してアンケート（意見）を求め、判断し進める
- 地区の集会の時、意見があって手を上げているのが男性だけのような気がする。女性は掃除して、お茶の用意をして、隅っこでおとなしくしていて、皆よりこそっと早く帰ってしまう。女性だって意見があると思うが、手を上げると、出しゃばっている様に見えるのでしょうか。女性が意見を発言しづらい雰囲気がある
- 他の県や町から来た者は、いつまでたっても地元の人からは、よそ者という感じでなかなか受け入れてもらえてないような気がする
- 30年前には婦人会、老人クラブがあり、親たちは地区の人達と親睦があったが、今では、老人会もないので、他地区の友達に仲間に入れてもらい、その町内の運動会などに2年間参加している。

住民交流

- 地区内におけるイベントの開催。スポーツ、趣味の交流（カラオケ、書道、俳句、麻雀、etc.）
- 大倉地区住民の親睦を深めるため、小学校とタイアップして大倉地区運動会の開催等
- 地区運動会の開催は、大変良いことだと思います。
- 大倉地区全体の統一行事（盆踊り、運動会等）を毎年（年 1 回）開催することにより、住民の団結を深めること
- 大倉地区全体の統一行事を年 1 度でいいから計画し、実行する。それを継続して伝統となるようにする。区民が積極的に参加するようになるまで粘り強く推し進める（盆踊り、運動会等）
- 大人も子どもも参加できる釣り大会
- ミニマラソン大会、餅つき大会
- 地域を訪ね歩く集いなど
- 50代、60代とだんだん年を重ねるにつれて、自分の家にこもるようになり、社会から離れていってしまう。若いシニア時代から楽しみながら活動できる場があるとよい。佐原の公民館に行かなくても手芸や運動、歌など皆で楽しくできる場、あるいはお茶を飲みながら話し合う（おしゃべり）場な

ど……。小さなことでも大倉地区で実践できることはないだろうか

- 若い人と年配の人との交流について、例えば3ヶ月に1回ぐらいの飲み会を開催させて、この人どこの人だろうと、言う人がいないぐらいに親睦を深める会が大切だと思う。
- 大倉地区をまとめてくれる方がいなくなり、次第に今まで行っていたスポーツレクリエーションなどが自然消滅してしまった。市民レクリエーションなど参加したことがあるが、他の地区の団結にとっても驚いた。大倉には、そのような団結力がとても欠けているような気がした。私一人が良ければいい、そう思う方が多い地域なのかなと思った
- 住民それぞれのあいさつが徹底されると良いと思う。人間関係の悪化が進んでいるので、良好にするよう努力しよう。人の和づくりが肝要
- 世代によっては、交流がないので、みんなで楽しく集まれて、顔見知り（見たことがある！程度でも）になり、地域にどんな人が住んでいるのかを知っているほうが良いと思う。知らない人にも挨拶はしますが……
- 子どもたちも、大人もみんなでできることが何もなくなっていまい、寂しく思っている
- 地区全体で収穫祭等を開催する
- 親睦を深めるためには、公民館などを活用して、集落の人が昔みたいに集まって、話し合える場を設けること。若い人と1年に2～3回程度
- 向う三軒両隣、地区民の交流親睦
- 現代において、人の行動は、多様となっており、地区の親睦を深めることは無理と思われる

まちづくり協議会

- 子ども、若いもの、大人にとっても魅力ある地域にするための活動（話し合いは大事だろうけれど、活動する中で発展していくと思う。）
- 協議会会長は立場を十分自覚して、ぶれずに責任ある態度で役員一同チームワークを大切にして、頑張ってもらいたい
- まちづくりについては、住民それぞれが利己的な発言しかせず、結局、何もできずにつぶれていく、そんなイメージがある。誰かが主体的にサービスやら事業を始めて、周りは応援するというのが大切
- ふるさと守りの和ができるといいと思う

- 自治体や行政から忘れられているような気がする。もう少し行政と連動した活動が必要ではないか
- 各地区独自の内容のある活動を協議会に提案して、共有できるものを年1回程度の行事として扱う
- 協議会の情報をわかりやすく伝えてほしい
- アンケート結果を回覧で回してほしい
- 住民が何をやってもらいたいのか知ることが大切

地域活性化

- 若者が住みたくなくなるような地域環境の確保
- 遊休地が多く見られるので、何か良い活用方法がないだろうか？
- 釣りの名所にして、小さな観光地にしたい
- 以前は、ゲートボール場とかあってやっていた。子どもも遊べる公園みたいなものがあるといい
- 観光スポットなど地域に安定した収入となる場所がない
- ミツカン跡地の利用
- 病院や商店の誘致 • 買物、病院が近くにあるように
- コンビニがほしい
- 大倉を活性化させるためには、収容できるような施設が欲しいと考える。県には、いろいろな観光施設があり、市には香取神宮、古い町並み、水生植物園等がある。大倉にも何か一つつくることはできないものか？一つの案として、栄町に「房総のむら」があるように、大倉にも水郷をイメージした（仮名、水郷のむら）というような施設とか・・・でも最も必要だと思うのは、その地に住んでいて生活に便利なこと。イオンのようなショッピングセンターがあればいいな

交 通

- 生活の足の確保（バスを通して欲しい）1日数本でもいいから必要と思う
- デマンド・タクシー制度の導入
- マイカーがないと買物等不便

その他

- まちづくりをする前に地区で使うコミュニティセンターが地震により被害を受け、活動する場所がない。当地区（側高）は、コミュニティセンター建設が第一の問題
- 6 t 川沿い砂利道を舗装していただきたい
- 国道356の早期バイパス化
- グラウンド（パーク）ゴルフができる場をつくる（成田、酒々井方面はかなり充実しているように見える）
- 地区よりも市でやってほしいことの方が多い。何をしていくにも予算が必要。子どもには保育料を安くし、教育に力を入れる。高齢者には、簡単な機械でネット注文で買い物できるようにしてあげる。病院への足を確保してあげる。今は地区よりも市の力の方が必要ではないか
- 介護をしている側として、他の人にはその大変さは分からないと思うので、そういう面で各世帯で何をしてもらいたいかわかるから、何でもできるサービスがほしい。介護しているとお金がすごくかかるので、お金がかからないようにどうかしてほしい。
- 地区全体で自然エネルギーの基礎をつくる。太陽エネルギーを利用して地域の電力をカバーする
- 水郷駅裏を市有地にして改善を行う

